

# 「人権週間はじまる」 12月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

私たちの意識の中には、いろいろな固定観念があります。そのため、一つ一つの事象や人間を見ずに「〇〇はこうだ」と勝手に決めつけてしまうことがあります。

固定観念を生じさせる原因の一つとして迷信や風習があげられます。例えば「葬式は友引を避ける」「夜、爪を切ったらいけない」などの迷信を信じています。不合理な迷信や風習でも昔からそうしてきたとか、みんながそうしている、という理由で受け入れてしまい、いつの間にかそれらが普通になってしまっているのです。

他にも数字の語呂合わせを気にすることもあります。最近では、家庭で餅をつく光景を見かけなくなっています。多くの家庭で正月用の餅つきは、12月29日 を避けてきました。これは、語呂

合わせで9を「ク」と読み、苦をつきこみ「苦もち」になると考えられているからです。私も子どもの頃にこの話を聞き、それ以来、29日に餅つきは避けるものと信じてきました。ところが、福岡県や長崎県では29を「フク」と読み、福をつきこむ「福もち」として29日に餅つきをするそうです。9にこだわれば「苦もち」に、2と9にこだわれば「福もち」に。このように、同じ行事でもところによって全く異なる慣習を持つのです。

また、今年9月、内閣府が行った性別による役割などをめぐる無意識の思い込みについての調査では76.3%の人が「ある」と回答しています。今なお、男女の役割を固定的にとらえる意識が根強く残っていることが明らかになりました。

12月4日から10日まで「第73

回人権週間」です。この機会に自分がいちも行っていること、当然だと思っていることが本当に正しいのか、思い込みや決めつけではないか振り返ってみませんか。

